

日本

雇用関連指標 (2020年5月)

失業率が急上昇、非正規中心に雇用環境は悪化

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

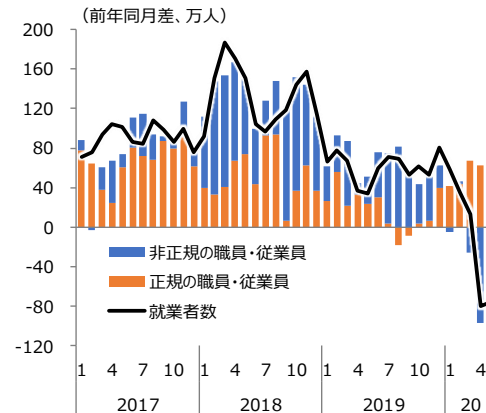
03-6858-2717

1 完全失業率



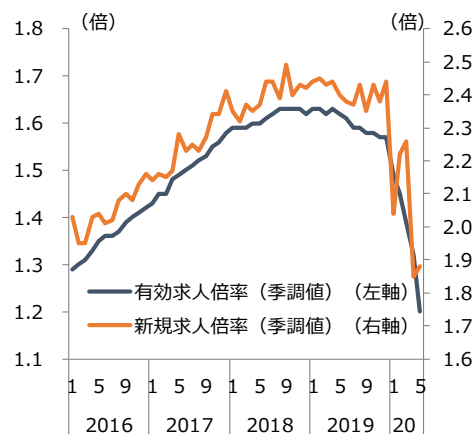
出所：総務省「労働力調査」

2 就業者数



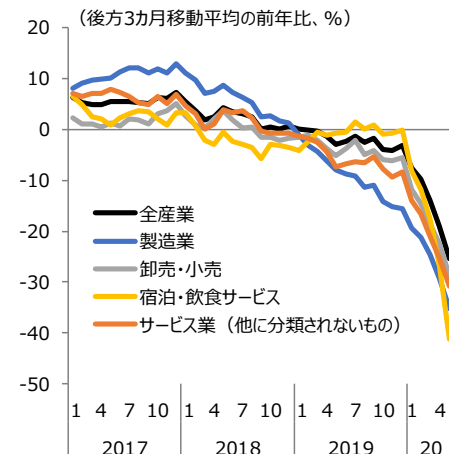
出所：総務省「労働力調査」

3 有効・新規求人倍率



出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

4 産業別新規求人人数



出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

評価ポイント

労働力調査 (2020年5月) の結果

- 完全失業率 (季節調整値) は前月比+0.3ポイント上昇の2.9% (図表1)。失業率は2017年5月以来の水準。4月に急増した休業者の一部が失業者に転じたとみられる。
- 就業者数は6,656万人 (前年同月比▲76万人) と2カ月連続の減少 (図表2)。雇用形態別では、非正規の職員・従業員が同▲61万人と3カ月連続で大きく減少し、流動性の高い非正規雇用での雇用調整が進んでいる。
- 休業者数は前年同月比+274万人増の423万人。特に宿泊業・飲食サービス業 (同+71万人) が大きく増加。休業者のうち約半数は非正規 (209万人)。4月 (同+420万人増の597万人) に比べ増加幅は縮小も、依然として高水準にあり、失業率以上に雇用環境は悪い。

一般職業紹介状況 (2020年5月) の結果

- 有効求人倍率 (季節調整値) は1.20倍 (前月比▲0.12ポイント) と、15年7月以来の水準。新規求人倍率 (季節調整値) は1.88倍 (同+0.03ポイント) (図表3)。横ばいも、新規求人数は低水準であり、追加的な労働需要は弱い。
- 産業別の新規求人数 (後方3カ月移動平均) は、宿泊・飲食サービス業が急減少。製造業では、生産が急減少している輸送用機械器具の減少が大きい (図表4)。

基調判断と今後の流れ

- 国内外の経済活動抑制を背景に、雇用環境は悪化している。
- 先行きは、雇用環境の悪化継続を見込む。国内外で経済活動が段階的に再開しているが、正常化には相応の時間を要する。企業は雇用維持を優先し、労働時間削減や休業で調整してきたが、失業率は上昇してきており、特に非正規雇用を中心に雇用環境は悪化している。さらに、休業者数も高い水準にあること、追加的な労働需要も弱いことから、実際の雇用環境は数値以上に悪い。政策支援はあるが、企業の資金繰りが厳しくなれば、解雇を伴う雇用調整が進み、失業者が増加するだろう。
- リスクは、感染の第二波、第三波による経済活動抑制の長期化だ。内外需の縮小が長期化すれば企業業績がさらに悪化、失業者が急増し雇用環境は一層悪化するだろう。